Bull. Fac. Life Env. Sci. Shimane Univ., 1:35−43, December 20, 1996

中国における国境貿易に関する研究
−中国・ミャンマー国境貿易の事例を中心に−

李暁静・伊藤勝久

A Study of the Border Trade in the South-Western China
-With emphasis on the border trade between China and Myanmar-

Xiaojin LI (*1), Katsuhisa ITO (*2)
*1) United Graduate School of Agric. Tottori Univ.
*2) Shimane Univ. Fac. of Life and Environmental Sci.

Summary

The border trade between China and its neighboring countries has recently become an important factor in the reformation of its market economy. Comparing with international trade that is lead by the central government, the traditional and regional backgrounds as well as its border trading methods have several advantages. China has three main trade areas. In the south-western part especially, the border trade between Yunnan district and Myanmar became the largest border area in China. This paper will try to analyze the background of this area trade development as well as its significance to the recent economic and social conditions.

Based on the result of survey, China imports materials and resources from Myanmar, and exports light industry products. The advantage on trade which the Yunnan district posseses, has several favorable effects such as:

1) By developing border trade, the local government can acquire income duties and open investments in order to establish improved industrial and trade equipment. 2) through the special method of account settlement using the China domestic currency, the trade income will not be affected by the fluctuation of the foreign exchange. 3) A trading route for a new market for low and medium level industrial products which are difficult to find the domestic market area, will be made available. These are the unique characteristics of this border trade area and is very important strategy to develope the chinese industries.

I. はじめに

中国の国境地域は，歴史的，自然的，地理的なことが原因になって，産業基盤が弱く，従来から貧困な地域であり，沿海地域と比べると，大きな経済格差が存在している．特に，70年代末に改革開放期に入ってから，政府は経済建設の重点を沿海部においたため，投資も沿海地域に集中した．また，市場経済の建設のために，沿海地域では経済改革を先行しておこなわれた．その結果，「経済特区」・「ハイテク開発区」の設立，対外貿易，外資導入の権限拡大などは，いずれも沿海部のみで実施された．結局，この沿海地域に偏った改革開放政策によって，国境地域と沿海地域の経済格差はますます拡大してきた．80年代後半に入り，改革開放の深化に伴って，政府は国全体の開発戦略について，従来の沿海偏重を改め，単一路線的な「沿海開放」政策のかわりに，「三沿（沿海・沿江・沿辺）開放」という全方位対外開放の戦略を打ち出し，国境貿易はその中の「沿辺開放」の構成部分として重視され始めた．

近年来，国境貿易は，国境地域の経済振興及び地域間の経済格差の是正に，積極的な役割を果たしている．特に，対外開放政策の進展とともに，国境貿易の規模と範囲も拡大しつつあり，単純な商品貿易から経済協力と経済開発の方向へ発展し，補償貿易・技術貿易・合弁経営・国外への直接投資・労務合作など，より深く関連する形態も出現させている．そして，国境貿易の目的は，互いに有無を通じ合うとか，過剰と不足を調節するとか，地元住民と経営者自身の生産・生活を満足することだけではなく，商品の高付加価値化と高収益性を実現することである．更に，国境貿易を通じて，全国の産業構造の調

整と経済の均衡ある成長を促進できるようになった．国境貿易の発展は，中国の「三沿開放」戦略の中で重要な課題になったのである．本論文では，雲南省徳宏州における中国・ミャンマー国境貿易の事例をもとにして，こうした国境貿易の展開及び現状を明らかにした上に，国境貿易と内陸国境地域の経済振興の視点から，その意義と今後のあり方について検討する．

Ⅱ．国境貿易の形態及び構成

1．形態と特徴

国境貿易とは，隣接する両国の国境地域住民の生産・生活上の利便性と地元の伝統的な習慣に従って，設けられている商品貿易方式及び国境地域経済技術協力と科学技術交流活動の総称である．

国境貿易は，許可権限，参入者，地域範囲，取引商品の種類・数量・制限及び納税規定などの区別によって，辺民互市貿易，国境小額貿易，国境地方貿易という三つの形態に分けられている．さらに，国境貿易は国際貿易の特殊な構成部分の一つとして，国際貿易との共通性を持っているが，一方，国際貿易と区別される特徴も持っている．すなわち，(1)区域性　(2)民族性　(3)伝統性　(4)簡単性　(5)特恵性　(6)独立性などである．（表－1）

以上述べた国境貿易の形態と特徴から見ると，国境貿易はそれ自身の発展には一定の限界があるので，国家対外貿易の中では，補完的であり，従属的であるという位置づけがなされている．しかし，国境貿易は，国際貿易が持ってない優位性を持っている．例えば，輸出入バランスを取りやすくて，支払いが難しくないこと，バーター取引方式により，外貨の流出入の制限を避けることができるので，為替レートの変化がもたらす支払いや貿易収支の不均衡の危険が小さいこと，直接的かつ適時に国際市場の需給動向及び価格動向に対して，適切に反応できること，などである．このような優位性は国境貿易の発展にとって，重要な要因になると言える．

2．構　成

中国における国境貿易は，各国境地域間の資源配置と産業構造の格差及び隣接国との経済・技術・資源と特徴的な商品などの各面での交易関係によって，北部国境貿易区域，西部国境貿易区域，西南部国境貿易区域という三つの区域に分けられている．（表－2）

北部国境貿易区域は，主として中国の東北三省及び内モンゴルの一部が隣接する北朝鮮，ロシア，モンゴルと国境貿易を行う地域を指している．この地域は，中国の対外交易政策で想定される「北東アジア経済圏」[1]の範囲に属するため，近年来，徐々に盛んになってきた地域間経済協力によって，国境貿易も一層発展してきた．交易形態としては，国境地方貿易形態と政府間の大口バーター取引方式を主としており，輸出では農林産物や軽工業製品が多く，また輸入では工業製品が多い．

西部国境貿易区域は，新彊西部とチベット南部地域がパキスタン及び西アジアの「イスラム経済圏」[2]を最終的な流通市場と想定して，国境貿易を行う地域である．この地域に住んでいるイスラム教の信者たちの強いつながりによって，国境貿易は民間貿易が先導的役割を果たし，地方を主体とする貿易を促進してきた．また政府と民間のバーター取引方式も存在し，その輸出入商品の構成は

表－1　国境貿易の形態と特徴

形　　態	特　　徴
・辺民互市貿易 隣接する両国の国境地域の住民の伝統習慣を考慮し，互いに有無を通じ合い，過剰と不足を調節し，生産と生活を便利にさせるという目的で，両国の政府が指定した地域で，一定の金額或いは数量範囲内で行う商品交換形態．国境貿易の原始的な形態． ・国境小額貿易 国境地域にある国営或いは集体工業・商業企業は地方政府の認可を得て設立された対外商号（貿易会社）が民間の立場で，隣接国の個人経営者及び政府の代理商人と指定された場所で貿易活動を行う形態． ・国境地方貿易 隣接する両国の政府が貿易協定によって契約をしてから，両国の地方対外貿易機構或いは国境貿易管理機関が指定した企業を通じて，規定された経由場所で行う商品交換の貿易方式．	(1)区域性 国境貿易は隣接する両国の国境地域の間で，直接に行わなければならず，第三国と直接に貿易を行うことができない． (2)民族性 特定の地理条件によって、同一民族が国境線両側に跨って住んでいることが多いため，血縁，人脈，言葉，生活習慣，宗教信仰などの縁故関係で，取引が容易になる． (3)伝統性 昔からの国境地域住民の生産と生活面での必要性及び伝統的な習慣に従って形成された． (4)簡単性 国境貿易は民間の取引を主としているので，取引方式が簡単で，交易商品の等級も低い． (5)特恵性 国境貿易の場合，商品の輸出入と住民の出入国の管理方面で，貿易双方政府が互いに関税減免と税関手続簡易化など特恵待遇を与えている． (6)独立性 国境貿易は「自負盈亏・自担風険（損益を自己の責任で負うことと危険も自己の責任で負うこと）」という原則を実行するため，政府からの貿易補助などの優遇措置を受けていない．

出所：「中国国境貿易概論」，「国境貿易理論と実務」などにより作成

表－2　中国国境貿易の構成

貿易区域構成			主要貿易形態	主要取引方式	主要決済貨幣	輸出輸入商品構成		管理方式
						輸出	輸入	
北部貿易区域	中国側	遼寧　吉林　黒龍江 内モンゴル　甘粛 新疆	国境地方貿易	政府間 バーター貿易 覚書貿易	スイス・フラン	食料 肉製品 果物 紡績品 軽工業製品	化学肥料 鋼材 セメント 家電製品 重工業製品 車輌・海産品	国家対外貿易部門が統一規定的な方法により管理すること
	隣接国側	北朝鮮　ロシア モンゴル						
西部貿易区域	中国側	新疆西部　チベット	国境小額貿易 国境地方貿易	政府間 バーター貿易 民間 バーター貿易	スイス・フラン	同　上	同　上	同　上
	隣接国側	ロシア・カザフスタン キルギスタン・クジクスタン						
		アフガニスタン・パキスタン・ネパール・シッキム・ブータン・インド						
西南部貿易区域	中国側	チベット東南部 雲南　広西	国境小額貿易 辺民互市貿易	民間 バーター貿易 現金貿易	人民幣 ミャンマー幣 ドルなど	軽工業製品 電動機械製品 鋼材	農産物 木材 鉱産物 畜産物 海産物	地方政府が辺民互市貿易・国境小額貿易の管理方法により管理すること
	隣接国側	ミャンマー　ラオス ベトナム						

出所：「中国国境貿易概論」,「国境貿易理論と実務」,「徳宏州対外開放及び口岸体系研究」により作成

北部国境貿易区域と大体同じである．

西南部国境貿易区域は，雲南と広西両省（区）を主とし，南アジア及びインドシナ半島の諸国を最終流通市場としている．特に，その中心的な地域は，雲南省の徳宏州とミャンマーとの交易範囲である．本論で対象とするこの地域は，古くからは西南シルクロードであったこと，また国境設定以前は一つの交易圏であったことなどの歴史的・伝統的な要因により，さらに立地条件の優位性があり，国内と国外の双方に資源供給地をもっており，国内外の幅広い市場の存在によって，加えて近年では「沿辺開放」政策により，国境貿易が急速に発展している．

この西南部国境貿易区域は，貿易額の大幅な伸びだけではなく，次の特徴を持っている．すなわち，輸出入商品の構成は，他の国境地域や沿海地域とは逆に，輸出では，中級・低級の工業製品を主としており，輸入では，資源と原料などの一次製品を主としている．そして，輸出入商品の種類もかなり多い．貿易の主体としては，民間，政府，あるいは半政府などがあり，形態としては辺民互市・国境小額貿易及び国境地方貿易など様々な形態が共存している．取引形態は，市場によって異なり，バーターや現金決済など様々な方式で行われ，しかも現金決済の場合，人民幣で決済するため，他地域の国境貿易や国際貿易のような手続きの煩雑さや為替レートの変動による影響を避けることができる．西南部国境貿易区域のこのような特徴を形成したもう一つの重要な要因は，他の国境地域よりも開放的な国境貿易政策と緩やかな管理措置を実行したからである．

以上で述べた三つの国境貿易区域それぞれの特徴から見ると，西南部国境貿易区域は両地域の資源構成や経済構造，及び国境貿易の規模，形態，取引方式，特に輸出入商品構成の点で際だった特徴を持っているといえる．そのため，中国・ミャンマー国境貿易は中国の国境貿易の中でも，「沿辺開放」戦略の中でも重要な位置を占めている．

Ⅲ．中国・ミャンマー国境貿易展開の背景

1．地域の概況と歴史的背景

雲南省徳宏傣族景頗族自治州は（以下徳宏州という），中国西南部雲貴高原の西部及び高黎貢山脈の西麓に位置し，西南部と西北部はミャンマーと接し，中国西南部国境地域の東南アジアに向けた重要な窓口といわれている．徳宏州には瑞麗，畹町二市と潞西，梁河，盈江，陀川四県がある．1993年の総人口は94.17万人である．そのうち，傣族，景頗族など少数民族人口は48.75万人で，51.76％を占めている．総面積は11500万平方キロメートルであり，うち，山地高原面積は94％を占め，海抜1000mから2500mの範囲に多くが分布している．地形は東北部の高黎貢山脈末端の主山脈と多くの支脈，及び山峡の河川により分断され，そして西南方向に傾斜し，北高南低という形になっている．また，気候上は，北回帰線に近く，ほとんどは南亜熱帯モンスーン気候帯に属しているが，地形条件によって，気候は垂直的分布状態を呈し，熱帯季雨林と温暖帯夏雨冬涼多霧など多類型があり，年平均気温は18.3℃－20℃であり、年平均降水量は1459mm前後であり，四季ははっきり分かれてなく，年間気温差が小さく，日

較差が大きいという気候の特徴をもっている．この優れた気候条件に恵まれているため，徳宏州の農業，林業及び畜業などの発展に非常によい影響をもたらした．その他に，動植物資源と鉱産物も非常に豊富である．徳宏州の豊かな自然資源はこの地域の経済発展に大きな影響を与えている．

2000年以上も前からの「西南シルクロード」は中国とミャンマー・インド・西アジア及びヨーロッパとの経済文化交流に重要な役割を果たしてきた．何千年以来，徳宏州はこの古代「西南シルクロード」のチャンネルであるから，長い歴史的基礎を持っている．更に，徳宏州は西南国境地域の門戸として，昔から，隣国住民との関係が密接であり，また，同一民族が国境線両側に跨って住んでいることが多いため，血縁，人脈，言葉，生活習慣，宗教信仰などの縁故関係で，長い歴史の上に貿易往来が形づくられている．中国・ミャンマー国境地域は長期間安定し，加えて幹線道路は徳宏州から国境に通じるている．そのため徳宏州は，南アジアを通ってインド洋に出る必然的な西に開けたチャンネルであった．

2．経済的位置づけ

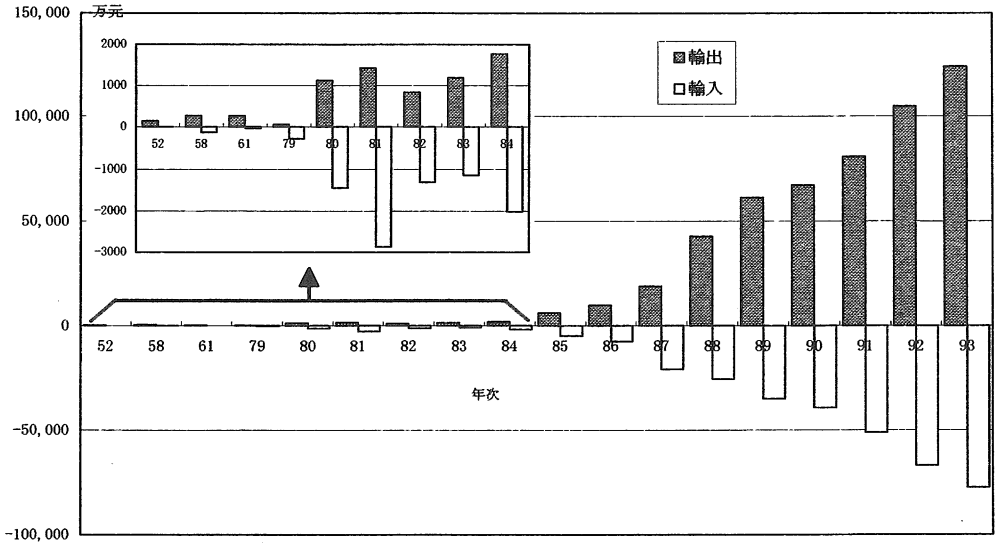
徳宏州は「東アジア連盟」と「東南アジア連盟」及び「南アジア7ヶ国連盟」という三つの経済圏[3)]の結合部，いわゆる中心部に位置しているため，アジア大陸奥地と南アジア亜大陸及びインドシナ半島を連接させる重要なチャンネルになり，多国間に展開しうる有利な貿易条件を持っている．徳宏州は中国の中では経済発展が遅れている西南部内陸国境少数民族地域に立地しているが，一方で徳宏州を中心とする経済圏の多数の国家は，大体農業国であり，ないしは工業化の初期段階にあるため，徳宏州と資源・技術・経済及び商品などの面で補完関係が緊密で，相互依存関係が生じることになる．特に，徳宏州と隣接しているミャンマーは，自然資源が豊富であるが，その開発や利用がまだ低段階で，経済発展が徳宏州よりも遅れている．近年来，中央政府では国際協力を求めるために，「全面開放」政策を実施しているが，国際貿易に依存を高めると，外債が多く，外貨が非常に欠乏することになる．このような理由で，国境貿易への依存が高くなっている．さらに国境貿易の中でも，中国・ミャンマー間の国境貿易を第一位に置き，多くの特恵待遇を与えている．徳宏州は既に7年間の改革開放経験があるので，雲南省内の他の州や全国のどんな国境地域にある州にも見られない国境貿易の経験による優位性を持っている．

Ⅳ．中国・ミャンマー国境貿易の展開と現状

1．中国・ミャンマー国境貿易の展開

新中国が成立直後，内陸国境地域が沿海地域との経済のつながりが難しいということと，国境地域住民の経済生活の利便性と地元の伝統的な貿易習慣に配慮し，政府は西南部国境地域住民の日用生活用品の供給不足を解決するために，徳宏州の国境を開放し，国境貿易を行った．40余年来，中国とミャンマー両国の政治・経済状況及び両国間の関係の変化，特に両国の国境貿易政策の変化により「三開二停大発展」という紆余曲折を経てきた．大まかに分けて次の4つの発展段階がある。（図－1）

第一段階　慎重的安定的な発展(1951年－65年)



出所：表－3と同じ

図－1　輸出入額の推移

50年代から60年代中期まで，中国は経済の回復と計画建設の初期段階にあったため，工業基礎が弱く，工業製品が不足していた．他方で，国境地域では昔から形成された外国から生産生活用品を購入することに頼るという状況がまだ変わってなかったので，政府は地方外幣（ミャンマー幣）を使用するのを主として，ミャンマーから生産資材と生活必需品を部分的に輸入し，同時にミャンマーに農産物を輸出することを行った．さらに，双方住民間の「辺民互市」も一定制限の下で許可された。その当時は，管理が厳しい上，制限も多かったため，国境貿易額はかなり少なかった．

第二段階　閉鎖と停滞(1966年－78年)

中国では1966年から「文化大革命」が始まった．この政治運動は国民経済の各部門に大きな影響を及ぼした．工業・農業生産は停滞し，社会は混乱の状態に陥り，しかも，全国的に内戦の状態に陥ったから，国境貿易は全般的に厳しく禁止された．同時に，ミャンマーも長期的な閉鎖的経済政策を実行した上，「国有化」政策を実施したので，国境貿易（特に中国・ミャンマー国境貿易）は「不法行為」とされた。当時の国境線には検問所が林立し，自由に出入りはできなかった．

第三段階　回復と発展(1979年－84年)

1978年12月に開催された十一届三中全会以後，「改革・開放」政策の実行に従って，国境貿易は回復し始めた．そのうち1979年から1982年3月までは回復・発展の時期であるが，1982年4月から同年8月までは，もう一度閉鎖された．1982年9月から再び復活し，国境貿易は内陸国境地域の対外開放のルートとして認識され，徐々に発展した．

第四段階　迅速的な発展(1985年－現在)

1985年に入ると，改革開放の進展とともなって，徳宏州の全域が国境貿易区として開放されたため，国境貿易が新たな発展時期に入った．すなわち全国的な改革開放戦略への転換によって，また国際経済発展の趨勢にすばやく順応するために，政府が随時国境貿易に関する施策を調整し始めることになった．1988年以降，ミャンマーも全方位開放政策を実行し，中国・ミャンマー国境貿易を合法とし，国境線を全面的に開放し，特別な優遇政策を与えた．それに従って，中国政府は「貿易主導」という政策を打ち出し，国境貿易を全州経済発展の第一位に置いて，優先的に発展させることになった．同時に一連の最も緩い管理措置を取ったため，中国・ミャンマー国境貿易が急速的・持続的に成長した．

以上のように国境貿易政策の展開に従って，中国・ミャンマー国境貿易は急速に発展している．輸出入総額は，1950年代の150万元人民幣から，1993年の20億元人民幣以上に達し，国境貿易の管理体系・経営体系・市場体系・加工体系なども完備された．しかも，国境貿易の発展とともに，徳宏州自身の「造血機能」の増強と経済の全面的な振興を促進し，徳宏州は中国国境少数民族地域の中で経済発展速度が速い地域の一つになった．さらに，中国・ミャンマー国境貿易は国家からの専門的投資もなく，国境貿易政策と地方政府の努力だけで，このような成果を得たことは，国家からの巨大の投資に頼る沿海地域の開放とは明瞭な対照をなすことになった．これらのこと

表－3　中国・ミャンマー国境貿易の推移　（単位：万元）

段階	年　度	輸出入総額	輸出額	割合	輸入額	割合	輸出入差額	国境貿易政策 中国側	国境貿易政策 ミャンマー側
1	1952	151	146	97	5	3	141	厳しく管理する	禁止
	1958	406	275	68	131	32	144		
	1961	306	271	89	35	11	236		
3	1979	342	62	18	280	82	－218	政策を緩める	厳しく管理する
	1980	2,575	1,125	44	1,450	56	－325		
	1981	4,324	1,450	34	2,874	66	－1,424		
	1982	2,148	832	39	1,316	61	－484		
	1983	2,335	1,192	51	1,143	49	49		
	1984	3,788	1,766	47	2,022	63	－256		
4	1985	10,972	5,990	55	4,982	45	1,008	国内国外に開放	厳しく管理する
	1986	17,219	9,570	57	7,649	43	1,921		
	1987	39,660	18,688	47	20,992	53	－2,324		
	1988	68,592	42,666	62	25,926	38	16,740		全面的に開放
	1989	96,543	61,380	64	35,163	36	26,217		
	1990	106,698	67,312	63	39,386	37	27,926	「貿易主導」政策の実施	
	1991	132,111	80,798	61	51,313	39	29,485		
	1992	171,796	104,850	61	66,946	39	37,904	実験区と対外開放都市の設立	
	1993	201,479	124,103	62	77,376	38	46,727		

注：1961－1965年データなし
　2段階（1966年－1978年）国境貿易は禁止された．
出所：「徳宏州年鑑」1992,1993,1994及び「徳宏辺貿」，「徳宏州対外開放及び口岸体系研究」により作成．

により，徳宏州の国境貿易政策，特に「貿易主導」政策は，全国の国境地域の中で最も開放的な政策であるという高い評価を得たのである．

2．中国・ミャンマー国境貿易の現状

（1）貿易額の拡大

輸出入総額の急上昇　　中国・ミャンマー国境貿易の輸出入額は，両国の国境貿易政策の展開に従って大幅に伸びた．表－3に示したように，50年代，第一発展段階の時に，国境貿易は国境地域住民の生産と生活の利便さだけを配慮するという原則に基づいて，管理が厳しかったため，輸出入総額が少なく，わずか150万元であった．60年代から80年代前までの第二段階の時に，中国は「文化大革命」の混乱状態に落ち込んだため，国境貿易が全般的に厳しく禁止され，中国・ミャンマー国境貿易も全く行われなかった．1979年の第三段階に入ってから，改革開放政策の導入とともに，国境貿易はだんだんと回復され，輸出入総額が急に上がってきた．第四段階の始めの85年に，徳宏州の貿易区として国内国外への開放とともに輸出入総額が一挙に一億元を突破した．88年以後，ミャンマーの全面開放によって，中国政府も最も緩和的な措置を採り，90年には「貿易主導」政策の実施により，輸出入総額が10億元を突破した．さらに93年には，対外開放都市と貿易実験区を設立し，そのため，国境貿易総額が20億元を突破した．

輸出額と輸入額の動向　　中国・ミャンマー国境貿易の輸出額と輸入額の動きを見ると，各発展段階ごとに特徴がある．（前掲図－1，表－3）

第一段階では，輸出額の方が多く，52年には95％以上に達し，逆に，輸入額はかなり少なかったので，輸出主導型であったと言える．第二段階は，貿易が禁止されていた時期であり，第三段階では，今度は逆に，輸入額が輸出額を上回り，入超状態であった．次に，第四段階に入ると，再び輸出額の方が多くなり，貿易総額に占めるシェアも85年の55％から93年の62％へと，徐々に上昇していた．このような変化の要因は，中国・ミャンマー国境貿易の輸出入商品の構成と密接な関係があると考えられる．例えば，その理由として，88年以降，ミャンマー側の需要により，鋼材，機械電動製品及び車など加工度が高く，付加価値も高い商品の輸出量の増加が続いていることなどがあげられる．

（2）輸出入商品の構成

中国・ミャンマー国境貿易における輸出入商品の構成は，ほかの国境地域の輸出入商品構成と沿海地域の対外貿易の輸出入商品構成に比べて，特異性を持っている．

輸出商品の構成について見ると，表－4に示したように，95年上半期には，紡績品，特に綿布・綿糸などが大口輸出商品になり，輸出額は約2億7000万元で，輸出総額の約32％を占め，また，化学製品（パラフィン）も約13％を占め，そのほかに，生活用の軽工業製品（自転車，ミシンと洗剤，魔法瓶など）の輸出も多く見られた．更に，近年来，ミャンマーと周辺国家の経済発展により，

表－4　1995年上半期中国・ミャンマー国境貿易輸出商品構成
（単位：万元・％）

輸出商品別	輸出額	割合	商品来源先
紡績品類（綿布・綿糸）	26,675	31.77	上海，昆明，大理，四川，遼寧
農業生産機械類（ハンドトラクター，吸水ポンプ）	10,811	12.88	昆明，重慶
化学製品類（パラフィンなど）	10,520	12.53	北京，海南，湖北
鋼材，セメント	6,918	8.24	昆明，遼寧
軽工業品類（ミシン，洗剤など）	6,683	7.96	上海，昆明，広州
タバコ類	6,212	7.40	昆明，紅河
自転車類	4,500	5.36	昆明，広州
薬品類	3,140	3.74	上海，四川，昆明，広東
その他	8,504	10.12	
合計	83,963	100.00	

出所：現地調査資料により作成

表－5　1995年上半期中国・ミャンマー国境貿易輸入商品構成
（単位：万元・％）

輸入商品別	輸入額	割合	商品販売先
木材類	17,010	39.93	広東，江蘇，上海
宝石類	11,110	26.08	広東，上海，北京，香港，台湾
水産物類	3,486	8.18	上海，浙江，江蘇，東北地区
特産物類（ラタン，木綿）	2,211	5.19	広東，江蘇，上海雲南省内
食料・豆類	1,098	2.58	江蘇，浙江，広東，昆明
畜産品類	777	1.82	上海，江蘇，雲南省内
乾燥果物類	490	1.15	広東，昆明
漢方薬材料	305	0.72	昆明，成都，上海
綿麻類	243	0.57	昆明，広東，上海
その他	5,870	13.78	
合計	42,600	100.00	

出所：表－4と同じ

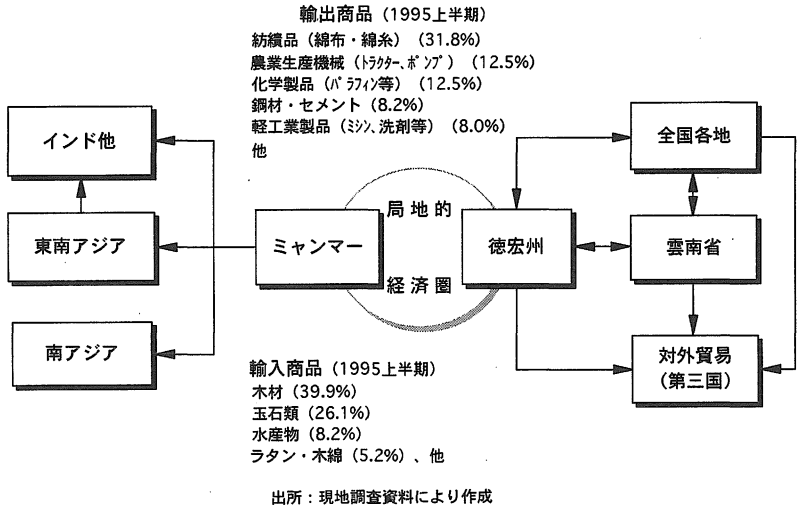
機械電動設備（ハンドトラクター，吸水ポンプ，中小農具など）の需要が増加し，それに伴い輸出量もかなり増え，これらの製品の輸出額は約1億元であり，輸出総額の約13％を占めている．

輸入商品構成について見ると，表－5に示したように，1995年上半期には，木材と玉石の輸入が依然として多く見られる．（これらの品目は、本来ミャンマー側は禁輸しているが，商人により密輸が行われている．）木材の輸入量は約1億7000万元で，輸入総額の約40％を占め，玉石の輸入量も約1億1000万元になり，約26％を占め，両商品を合わせると輸入総額の約66％を占めている．また，水産物と他の一次製品の輸入量も継続的に多く，これらの一次産品は中国側にとっては，国内需要や国際貿易による対外輸出用商品の加工原料となっている．

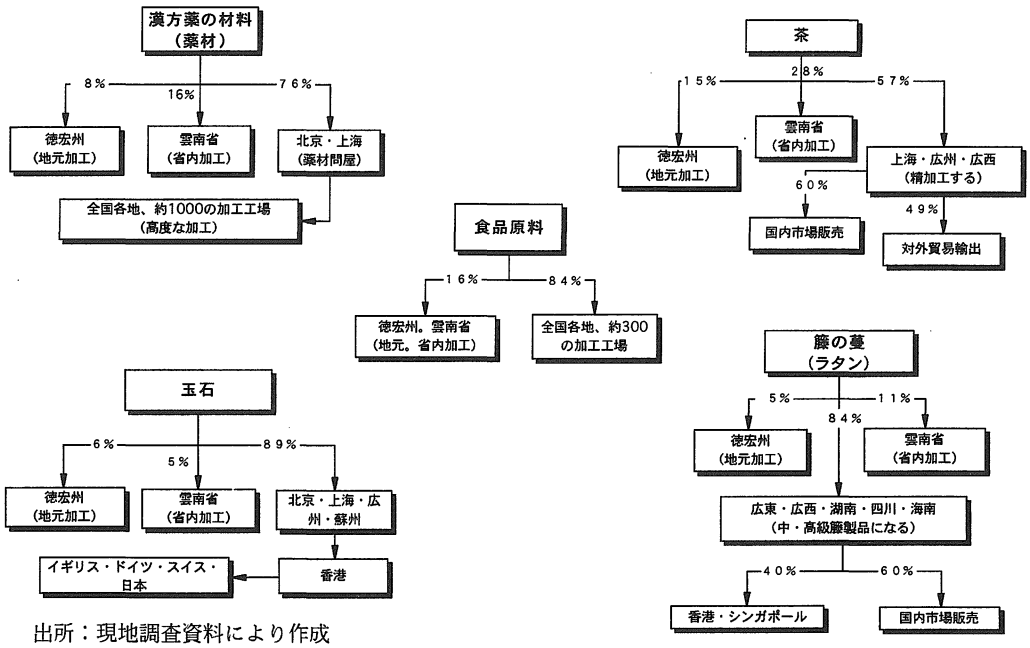
3．市場体系と流通範囲の拡大

中国・ミャンマー国境貿易の拡大によって，徳宏州と中国全土の工業製品に国外市場が開拓され，また中国側の産業の原料供給地を確保するということになった．中国・ミャンマー国境貿易を中心に見た国内外の市場体系と輸出入商品の流通経路をまとめると，図－2のようになる．輸出商品，つまり中国製品のミャンマー市場にお

図－2　中国・ミャンマー国境貿易市場体系と流通経路



図－3　1987年中国・ミャンマー国境貿易輸入商品流通経路



出所：現地調査資料により作成

表－6　1994年瑞麗口岸輸入商品流通状況　（単位：%）

地域	木材	玉石	海産物	ラタン	お茶	綿花
省内	54.00	15.00	27.00	4.20	40.00	30.00
広東	27.00	61.00	6.00	94.00	60.00	－
江蘇	8.10	4.50	4.20	－	－	－
上海	5.20	1.70	－	－	－	－
安徽	2.90	－	－	－	－	－
湖北	0.60	－	－	－	－	－
浙江	0.40	0.40	57.00	－	－	－
福建	0.40	0.30	0.60	0.30	－	12.00
四川	0.20	1.00	0.60	0.80	－	33.00
天津	0.10	－	－	－	－	－
河南	－	6.60	－	－	－	－
北京	－	1.30	0.60	－	－	－
貴州	－	0.10	－	－	－	8.60
広西	－	0.80	－	0.30	－	10.00
陝西	－	0.30	－	－	－	－
西安	－	0.40	－	－	－	－
瀋陽	－	0.30	－	－	－	－
甘粛	－	0.30	－	－	－	－
山東	－	－	4.20	－	－	－
香港	－	0.30	－	－	－	－
台湾	－	0.50	－	－	－	－
タイ	－	0.10	－	－	－	－

出所：現地調査資料により作成

ける占有率は，消費品で約65%に達していると推定されている．さらに，輸出商品の一部分はミャンマーを通じて東南アジアと南アジアなどの広い市場に進出している．

輸出商品の生産地は地元の他，雲南省，西南地域及び全国に及んでいる．（図－3，表－6）　日用消費品では，徳宏州と雲南省以外の商品が79%を占める．しかも，これらの輸出商品は、中・低級工業製品が多く，国内市場では供給過剰気味で，販路が得られず，滞貨になることが多かったが，国境貿易により日常消費用の中・低級工業製品に販売ルートを開拓したことになる．一方，輸入商品の販売経路を見ると，地元に留まり加工される原材料はむしろ少なく，ほとんどのものが，地域外や雲南省外の全国各地の加工地へ流通している．これらは高度に加工された後，国内市場販売のほか，対外貿易によって，第三国へ輸出されることになる．

V．総　括　－中国・ミャンマー国境貿易展開の意義と課題－

1．意　義

以上で見てきたことからまとめると次のようになるであろう。徳宏州で行われている国境貿易政策がもたらす意義を他地域と相違することに限って述べると次の3点がある．

（1）地域財政収入への寄与

徳宏州が国境貿易区として開放されて以後，国境貿易の急速な発展とともに，全州の一次産業・二次産業と三次産業の発展を促進し，自身の蓄積能力を向上させたほか，最も重要なことは，国境貿易関税による財政収入が大幅に増えた点である．

（2）支払い手段の特異性による外貨獲得機能

中国の人民幣は以前からミャンマーの市場で流通し，そしてミャンマー幣より信用が高いため，国境貿易の支払い手段と貯蓄手段になった．また，品薄商品の中国側からの輸出に際してはドルで決済されることが多く，外貨獲得機能を持っている．そして，この機能によって，他の内陸国境地域より有利な貿易利益と効果を得ている．

（3）低級・中級工業製品の国外への販路拡大

ミャンマーと周辺国家の現在おかれている経済発展段階から見て，この地域の国境貿易は他の国境地域や沿海地域と区別される独特の輸出入商品の構成を形成した．つまり，品質，ブランド，或いは国内需要に比較して供給過剰になりやすい商品特性などの要因によって，国内市場や国家対外貿易を通じては，販売しにくい低・中級工業製品が，徳宏州の国境貿易を通じ，ミャンマー側へ輸出でき，市場を開拓できたという点である．

2．今後の課題

第一は，国境貿易企業の整理である．近年来，徳宏州の国境貿易企業は増えたが，小規模なものが多いので，経営効率と収益性の向上及び技術レベルの向上のために，整理が必要である．

第二は，国境貿易を単純な通過貿易型から貿易・工業

結合型，つまり加工貿易型への転換を進めることである．加工輸出工業を発展することで，商品の付加価値の向上を通じて，国境地域の資源供給面での優位性を商品面及び経済面の優位性に変え，経済振興をすることができる．

第三は，国境貿易の発展を基礎として，沿海地域の開放経験を参考し，徳宏州「内陸経済特区」などを設立する必要がある．上述のように，付加価値の高い資本・技術集約的な商品の輸出と付加価値の低い労働集約的な商品の輸入という，沿海地域とは逆の輸出入商品構成によって，徳宏州が経済的に優位に立つことが可能で，沿海地域とは異なる意味の経済特区が建設可能になると考えられる．

第四は，現在までの国境貿易の発展は，元々この地域にあった小規模な交易圏を足がかりに展開してきたもので，徐々に国家政策的色彩を強めている．このことは現在の中国の状況から見てやむを得ないことではあるが，この地域の特性を生かし，今後の発展を見るならば，従来からの民間，民衆レベルの小規模な交易スタイルも保存し，多重性を持つ貿易システムを現代的に再編成することが重要である．これらのことによって，徳宏州はミャンマー及び周辺諸国との資源・経済・技術・商品の各面の補完関係によって，近代的かつ国家主導の交易体制とは異なる，もう一つの局地的経済圏を形成する可能性があると考えられる．

注

(1)(2)「北東アジア経済圏」および「イスラム経済圏」は，中国の対外交易政策で想定されている圏域を指し，前者は，中国北部・東北部と隣接する諸国を範囲とし，後者は，新疆西部とチベット南部地域がパキスタン及び西アジアの諸国を範囲としている．

(3) 上の注と同様に，対外経済政策で想定されている圏域である．ここでは，中国南部（雲南省，広西チワン族自治区）を中心に，台湾，韓国，日本等を範囲とする「東アジア連盟」，フィリピンなどを含む「東南アジア連盟」及びインドシナ半島諸国とインドネシアなどを範囲とする「南アジア７ヶ国連盟」を想定している．そして，これらの三つの経済圏の中心部に雲南省，広西チワン族自治区が位置する。実際，中国南部の経済発展と諸隣国との経済交易は急速に増大し，その中でも，雲南省の省都昆明が重要な位置にある．

参 考 文 献

1．楊徳穎主編：「中国国境貿易概論」中国商業出版社．1992.9

2．李茂興，施本植，張継濤主編：「国境貿易理論と実務」徳宏民族出版社.1992.9

3．黄万綸，李文潮主編：「中国少数民族経済新論」中央民族大学出版社.1990.12 4.楊帆，夏広鳴主編：「中国沿辺開放都会投資貿易案内」中央民族大学出版社. 1993.1

5．李文潮主編：「民族区域経済開発企画と管理（要綱）」中央民族大学出版社.1991.5

6．雲南省社会科学院徳宏経済研究所，雲南大学経済学院対外経済貿易学部編:「中国・ミャンマー国境貿易案内」徳宏民族出版社.1993.1

7．楊毓才著：「雲南各民族経済発展史」雲南民族出版社．1989.10

8．郭来喜，刀安鉅主編：「徳宏州対外開放及び口岸体系研究」中国科学技術出版社.1993.11

9．徳宏州傣族景頗族自治州人民政府編：「徳宏大観」上海文芸出版社.1993.3

10. 徳宏州傣族景頗族自治州国境経済貿易管理局編:「徳宏辺貿（徳宏国境貿易）」.1993.2

11. 雲南省対周辺国家経済貿易局編：「中国・雲南・国境貿易」.1995.7

12. 賀聖達：「ミャンマーの経済構造，経済体制と経済計画」『徳宏経済』２１．P23～27. 徳宏民族出版社.1992

13. 畢重群：「滇緬経貿関係の歴史淵源と前景」『徳宏経済』２１．P28～35.徳宏民族出版社.1992

14. 郗承文：「談談徳宏州進一歩拡大開放の思路」『徳宏経済』２１．P65～68.徳宏民族出版社.1995

15. 湯敏：「関深化辺貿改革，建立跨国経済合作区の建議」『徳宏経済』２２．P69～71. 徳宏民族出版社.1995

16. 劉春滨：「ミャンマー経済面臨の困難と選択」『徳宏経済』２２．P138～145.徳宏民族出版社.1995

17. 李麓川，林琼：「ミャンマー経済の過去，現在と未来」『徳宏経済』２２．P146～161. 徳宏民族出版社.1995

18. 馬駿,邹剛：「論我が国内陸国境省区の対外開放」『管理世界』第六期. P60～69.中国社会科学出版社.1989

19. 南亮進：「どこへ行く中国経済」日本評論社.1985.12

20. 南亮進：「中国の経済発展－日本との比較－」東洋経済新報社.1990.9

21. 張風波：「中国マクロ経済分析」有斐閣.1989.2

22. 渡辺利夫，白砂堤津耶：「図説中国経済12－対外経済」『経済セミナー』４４６．P100～115.日本評論社．1992.6